

# カーペットのお手入れ

掃除機をかけて、効率よくゴミ・ホコリを取りましょう。

カーペットのお手入れの基本は、掃除機をかけること。毛足の中に入り込んだホコリや小さなゴミ、さらにダニまで取除くのに最適な方法です。掃除機の効果をもっとアップさせるために、効率的なかけ方をご紹介します。

**週に2回かける**



毎日と言いたところですが、それは大変。せめて1週間に2回は掃除機を丁寧にかけましょう。まず粗ゴミを取り、汚れなどを点検しながら、ホコリを吸取ります。

**逆目にかける**



掃除機は、カーペットの毛並みと逆方向にかけます。毛を起し、毛足の根元の空気の通りをよくして、ゴミを吸取ります。上から押さえつけると、かえってゴミが取れません。

**1平方メートルあたり20秒が基本**



ダニ対策として、1平方メートルにつき20秒はかけましょう。これで、ダニやその死骸、ダニのエサなどがかなり吸取られます。とくに人がよく歩いたり、座ったり、物を食べたりするところにホコリが溜まり、ダニが集まりやすくなります。ホコリの溜まりやすいところを意識して、掃除機をかけてください。

**取れにくい糸ズなどは粘着テープで**



からみついた毛髪や糸ズは取れにくいもの。こんな時は粘着テープを使うと、きれいに取れます。

月1回の拭き掃除でカーペットをキレイに保ちましょう。

カーペット全体が薄汚れているようなら、拭き掃除がおすすめです。月に1回くらいの拭き掃除で、カーペットをよりきれいに保つことができます。

**拭き掃除の手順**



まず固く絞ったぞうきんで水拭きします。汚れが落ちないようなら、中性洗剤を溶かして使います。一通り拭き終わったら、お湯で固く絞ったぞうきんで、洗剤が取れるまで拭き上げます。最後に乾いた布で、から拭きします。

**拭き方のコツ**



まずカーペットの毛並みに沿って、次は毛並みに逆らってと、いろいろな方向へ力を入れて拭きます。ぞうきんは、つねにきれいな面を使うようにし、こまめにすすぎましょう。

**洗剤の選び方**



一般に、住居用や洗濯用の中性洗剤を使います。ウール100%のカーペットなら、風合いを保つためにウール用の洗剤を使いましょう。洗剤が残らないよう、しっかりと拭取るようにしてください。界面活性剤の入っていないものや、水性または植物性のものなら洗剤残りをおさえられます。

ほつれ・へこみ・焼け焦げなど、気になるトラブルは早めに補修。

カーペットのほつれや家具を置いた跡のへこみ、タバコの焼け焦げは気になるものです。日頃からこまめにチェックし補修しましょう。

**ほつれのなおし方**



毛足がほつれているのを見つけたら、決して引っ張らないこと。ほつれた毛足を回りと同じ高さにハサミで切ります。

**へこみのなおし方**



家具跡には、お湯を染み込ませたタオルで水分を与え、20cmほど離して温風ドライヤーをあてます。スチームアイロンも効果的。ナイロン製のカーペットなら、熱を加えるだけである程度戻ります。

**焼け焦げのなおし方**



タバコの焼け焦げは、ウールカーペットなら歯ブラシで焦げた部分を落とし、掃除機をかけておけば大丈夫。しかし、合成繊維のものは熱で溶けているのでその部分をまずハサミで切取ります。次に、部屋のすみや家具の下など目立たない部分の毛をハサミで切取ります。焦げ目の部分に木工用ボンドをつけ、切取った毛を埋め込んでいきます。木工用ボンドは乾くと透明になります。

とっさのお手入れ

水性のシミの取り方 (例：しょうゆの場合)

- 1 まずはティッシュペーパーで**  
ティッシュペーパーで上から押さえ、たいてい水分をティッシュペーパーに移し取りましょう。
- 2 つぎにハブラシで**  
水で薄めた台所用洗剤をハブラシにつけてシミの上からたたき、さらに台所用洗剤を垂らして指で泡立て、汚れを浮かせます。汚れを広げないよう、周囲から中央に向かって作業します。
- 3 最後は濡れたタオルで**  
濡れたタオルで洗剤分をよく拭取ります。泡が取れたら、ティッシュペーパーで水分を吸取り、洗剤が残らないよう、固く絞ったきれいな布でもう一度拭きます。

※水性汚れの例：ジュース、醤油、牛乳、ソース、ケチャップ、ジャム、酒、紅茶、コーヒー、墨汁など。

油性のシミの取り方 (例：マニキュアの場合)

- 1 まずは除光液で**  
布に除光液を多めに含ませ、たたき込んで汚れを移し取ります。
- 2 つぎに塗料用薄め液で**  
除光液で移し取れなくなったら、塗料用薄め液で、繰り返したたきましょう。油性マジックのときもこの方法で。ベンジンでも取れます。
- 3 さらに洗剤でたたくように**  
水性汚れの場合と同じように、中性洗剤をつけてたたくようにして拭取ります。
- 4 最後はきちんと乾燥を**  
洗剤をきれいに取除き、水拭きし、水分を取って、乾かしましょう。

※油性汚れの例：バター、マヨネーズ、食用油、卵、チョコレート、マジックインキ、マニキュア、口紅、ペンキ、靴墨など。

いちばん多い  
“食べ物”のシミを取る方法。

**ガム**



氷をあてて固まらせ、たたき砕いて取ります。布製の粘着テープにくっつけて剥がし、残りを爪楊枝で取る方法もあります。後はアルコールかベンジンで拭きます。

困ったシミも、  
あきらめないで取りましょう。

**紅茶 | コーヒー類**



まずは「水性のシミの取り方」をお試しください。生クリームやミルク入りのものは薄い中性洗剤液で。古いシミはレモン片か酢で拭くと効果的。

**チョコレート**



ティッシュペーパーで拭いてから、ベンジンでたいてい脂肪分を取り、さらに洗剤液でたたき出します。

**口紅**



アルコールでこすり取り、洗剤を入れたぬるま湯で拭きます。

**ジュース(果実汁)**



まずは「水性のシミの取り方」をお試しください。シミが残るときはアンモニアか中性洗剤液で落とします。

**アイスクリーム**



粉末洗剤をかけて吸収させます。乾いたらブラシではらうか、掃除機の隙間ノズルで吸引します。

**マニキュア**



除光液を染込ませた布でたたき取らせ、その後、ベンジンや塗料の薄め液でもたたき取ります。

**ビール | ワイン**



水またはぬるま湯を、布か綿棒に含ませ、シミを吸取るようにたたきます。ぬるま湯でもだめなときは、アンモニアか中性洗剤液で落としましょう。

**しょうゆ | ソース**



まずは「水性のシミの取り方」をお試しください。古いシミはオキシドールで漂白を。

**クレヨン**



アルコールをハブラシにつけて、たたくようにして取り、その後、ぬるま湯で拭きましょう。

**卵**



白身は中性洗剤液でたたき出すように。黄身はベンジンなどで脂肪分を取ってから、白身と同じようにたたきます。熱湯は蛋白質を取れにくくなるので要注意。

**カレー**



水かお湯で絞った布でたたきましょ。落ちなければ毛糸洗い用の洗剤溶液でたたき出します。

**灯油**



粉末洗剤をかけて吸収させます。その後ブラシではらい、自然に蒸発させて乾かしましょ。窓を開けると乾きやすく臭いもとびます。